

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年1月11日(木)

みんなの居場所

【雑感】

先日 ある教員から連絡があった。就職試験に失敗したという連絡だ。かなり落ち込んでいたが、再度チャレンジするということだった。電話の後、次の言葉が色紙に書き贈った。

「耐える心に、新たな力が湧くものだ。全てそれからである。心機一転、やり直せばよいのである。長い人生の中で、そのための一年や二年の遅れは、モノの数ではない。」

本田宗一郎

誰にでも多かれ少なかれ、失敗や挫折の経験はあろう。私は失敗だらけの人生を送ってきた。その度に卑屈になり、今振り返ると少々見苦しい青春時代を過ごしたように思う。私の経験則から、失敗を乗り越えるには、あつちの人生には良い糧となる工夫が多い。この教員にも頑張してほしい。

卒業前編 ～中学校生活～

の年生田舎の中学校に入学して半年を過ごしてはいるのではないだろうか。1年生の頃、私が思っていた中学校生活は想像を越えていたと思う。

中学校生活は思春期を迎える、何か繊細なイメージとか、ちょっぴり大人びたイメージが持てた時代だった。友人関係、先輩後輩、親子関係の変化、勉強、部活…。子供達が抱える不安は多岐にわたります。今回はまず、学習全般と生活リズムの関連について考えてみたいと思います。

大きく変わるのは部活動等に多くの生活の劇的な変化ではないでしょうか。私の場合、学習以外の時間は殆ど部活動につきまわっていました。友達といる時間も大切に感じられたからです。しかし、私の学習時間は小学校時代と比べて激減しました。実際のところ、中学生になったからといって学習の時間を増やすという事は物理的に無理です。7時間授業も始まる、また、部活動も始まれば、家に帰ったり「食入」や「寝る」というのが始まりました。それに反し、中学校で1学期に進む教科書のページ数は平均して100ページ、暗記しなければならぬ事柄は、実に小学校の1.5倍に跳ね上がります。勉強の仕方に慣れて、成績に大きな差が生じる時期です。だから、小学生のこの時期に、短時間で集中して学習する習慣、毎日自主学習をする習慣を身に付けておくことが大切なのです。

私の場合、それでも学習時間は増えませんでした。思春期の入り口のこの時期、自分だけのプライベートスペースを保障される、自分の興味のあるものに気が持てる、学習時間を削ってしまっていたのです。こういったことが習慣化する、それこそが中学生時に取り返すことができない、大変な関わりが求められる訳です。

結論として、中学生生活は自主学習や生活時間の中で、自分なりにコントロールするところが大切であり、与えられた枠組みの中でどうやって生きていくか、学習については「積極的」、自分に必要なこと、あるいは自分なりのことを、自分の力で探していく、その解決していくことが、本来の力になるのです。

そして、これはおぼろげに、規則を打破することは重要で、守れなければ「ハッパッ」一刀両断です。規則の中で自分を表現する術を学んでほしい。

シリーズ「自分を語る」#146

平成28年度、何かを始めるか考えた私澤田。あんまり大したことはできないので、このお便りのタイトル通り、学校に関係する人達にとって「居場所」であるための何かが必要か、昔その様な視点で物事を考えるようになっていました。平成28年度末から私、自宅でスイレンを栽培し始めて、成長が順調でしたのでこれを学校へ持っていくことになりました。スイレンはもともと敷いた環境の中でも強い植物で、放つからかきつけていても、生きています。そこで、私、自宅で植木鉢一杯に根の張っていたスイレンを鉢分けし、3株ほど学校に持っていくました。鉢分けしたスイレンを見て、最初は先生方も子供達も「何だこの根」「何だ」と思っていたものでした。そんな根っこが、鉢の中一杯に根を張り、3月には株分けしないといけない状況になります。スイレンですから水が無いといけません。水があれば欲しくなるのが水生植物です。ちょっといい臭い私にはメタカを飼っていたので、水草とメタカの卵をスイレンのタライに持って来ました。数日後、針の先のような動く物体が？メタカの稚魚です。生まれたての稚魚は針子でも呼ばれます。朝の登校指導の折は、タライを覗き込むのが日課となりました。

4月から気温が上がり始め、9月頃まではコンスタントに水を変えてあげないとすぐに腐ってしまいます。もともとメタカも強い魚なので放つだけにしてはダメなものはあるのですが、愛情を注げば泳ぐほど可愛くなるものです。しかしながら、私たちがメタカの世話ばかりしてはいけません。という訳で、たまに近づく子供にお世話をお願いするようになりました。夏休みに入り、まきりと世話をするのができ、夏休みに入った頃でした。ところが、スイレンの花がやっと咲きました。玄關を通る人達が足を止め、タライを覗き込む姿を見て、ちょっと嬉しいな澤田でした。

平成29年度、がむしゃらに泥鰌へ、何かを追い求めていた澤田ですが、これとどう決定打を探すとかならないまま時間が過ぎていきました。「みんなの居場所」はコンスタントに執筆でき、保護者の皆様からの多くの反響もあり、調子に乗って執筆してしまいました。

10の年は意味不明な問題に過ぎたというか、大きな出来事が無く過剰な感じだった。私にとってはあまり印象に残っていない時間になりました。とにかく次々と出る事務処理には開口していました。働き方改革が叫ばれる昨今、教職員の働き方改革は進んで来た、と叫びだすような状況でした。とは言え、その様に感じているか、できるか、という点も平成28年度があったからだと思います。仕事に追われて過酷な1年間でしたが、それによって1年間の事務処理の流れは何か分かってきました。だからこそ、その業務量の多さを実感するようになってきたのだと思います。教職員の事務仕事だけやっていけば良いものではなく、突発的な問題にも対応する工夫が必要なんです。しかし、突発的な問題対応はかなりのエネルギーを使います。(つづく)